# 少年唱歌集

中美妙

本間文庫
文庫 14
A 162
2

53-1707(B)

東閣文庫

最初の見出し不可

# 下巻

## 二篇

### 花

### 壱

4

(一) 花の雲

ものさみしき花の雲、
うたゝ寝の夢の花の雲、
はるかに見やる山の雲。
雲の雲ぞ雲ぞ雲ぞ
やまくれば雲の雲
雨ふれば雲の雲
霧ぬれば雲の雲
なつかしや

少年唱歌集第弐篇
山田美妙著

早稲田大学



## 弐

月の朝、
はるの夕、
あの雲も
あの雲も
雲。

(二) 雲の花

ものさみしき雲の花、
うたゝ寝の雲、
雲の雲ぞ雲ぞ雲ぞ
雲ぬれば花の雲、
雲ふれば花の雲、
雲の雲、
雲の花、
なつかしや

うつみ[illegible]の
[illegible]を[illegible]の、[illegible]
[illegible]の[illegible]

静 (4 春の曙（言文一致体）

霧が晴れて(二)の、うぐひすの
こゑもしきりに、[illegible]の
音もそよそよ[illegible]。
そよ[illegible]みちのくの[illegible]よ
[illegible]つゝ、稍[illegible]の[illegible]。
[illegible]の声と[illegible]かすかなる
そこの「つまづき」の[illegible]
[illegible]の[illegible]の跡。





そよ吹く風(二)も肌さむく、
つめたくある[illegible]み
[illegible]窓[illegible]清き[illegible]。
[illegible]芽ぐむ筝の
[illegible]て[illegible]で[illegible]めく
[illegible]ね吹く[illegible]さも
あはれ垣根のちどり[illegible]、
(三) [illegible]の
かのめくの[illegible]しさ。

（四）



（五）

柳

あり髮

そこ

（4

はる春雨ふる時雨
時雨のみ
降りしぶ、降りぬれば
雨の音と鶯の
鶯の鳴くなる
の鳴くなる
眉美しく
見れば
見れども飽かぬ
見れども飽かぬ
見れば人恋しく
見れば。
見れども飽かぬ
見れども飽かぬ
見れば。
見れば。
見れば。





（4

夏
時雨
鶯
山
の
端
や
降れば、
降れば
降れば。

4

若葉の月

若葉の月

若葉の月や なぶる。

若葉の月 なみぶる。

若葉の月 よよふる。

若葉の月 と 頻に。

若葉の月 初鰹

若葉の月 初鰹

若葉の月 とろける

若葉の月 初鰹

若葉の月 とろける

若葉の月 初鰹

たちくる 靄(もや)に みゆる。
一 むらの(?)
ひとつけの 椿(つばき)の ほでみ
おちつき ふかみ。
つばきて ふくれ
こゝろね の せつなさ いのりに、

九

初夏(しよか)

峠(たうげ) ゆくさき かげろふ、
椿(つばき)の ひに 夏(なつ)を 迎(むか)ふ。
はるの 名残(なごり)と とのぐもり
雲雀(ひばり)の 唄(うた)を 空(そら)に のこし。
雲雀(ひばり)の 唄(うた)も 空(そら)に のこし。
しばし 耳(みみ)に 残(のこ)る 蛙(かはづ)も。
花咲ぞ 紫陽花(あぢさゐ)の ころも 匂(にほ)ひ、
峠(たうげ)も、見(み)え、足(あし)、向(むか)ふ ゆく。

山も、天、地よ、白らく、
動ごき、楽しき はつがつを。
谷の下 ひびき ゆふづきに 下
晴て そぐ、間の 葦。
合唱
夏の はじめの かなしろや ーー。

桂川鵜飼の菊

陣屋の　きく　と　ちる

ちぐさ　ちて　ちて　桂人　菊の　ちの

夏の　ちの　つゆ　きく





4 晩秋即事

こがらし　ふ　ち　ち　しも　夢　ち　ちる　心　ち。

秋　ちて　ちて　ちる　ちた　の　紅　さく

なって　ちて　ちの　ちる　の　菊。

はげし　て　ちの　ちる　の　菊。

ちみて　ち　ち　の　風　の　ちる　ち

ち　ち　ち　木　ち　ちる　ち。

# 弐

らうらうき月に帰る[illegible]づ
山ゆく いろふ 月のげ
蒼ざめく [illegible] [illegible]つ。
天 の 椋の [illegible]
[illegible]くろく、秋の [illegible] 流し。
のぞくて [illegible]の [illegible]の、
血を 帯びらく まなこ きらめく。
風ふかく 枝 さざめんで、
[illegible]てゐる [illegible] いのらく。
[illegible] [illegible] [illegible]と し ぐれけ！

花ぞ その かげろふ の こゑ！
わくらば の 夢 も しづく。
まいかふ て こぼ 搾り なり。

4 ——の——

鐘 の 山鳴
木こし や いのげ の こゑに、
秋 鹿 や 糸 なく 遠く。
みて ささき みなかみ、 酒
池 の こゑ 行く 蹄 ね——。

十三

6 たまき たの霧（あまがいつて、ていうんだ 某作品の補遺）
たちもやうら、 白く こぼれ さやう、
蔭 なる せと しのく ふく。
睡気 なる 川 の 瀬 も 細く、
うたの なる 山 も かげ て ゆるる。
いちの そ 枝 ぶる め げ よ 岸 の
あやし も 藻 を うら ふ 夢 の 小貝。
うれしき 帆 の 帳、 続く の こゑ も、
むら の 香 も 絶え、 ねむる 里 よ。

[illegible]、[illegible]も[illegible]の、
[illegible]やはり[illegible]、世とともに[illegible]。
[illegible]の[illegible]
[illegible]、[illegible]鶏も[illegible]なく。

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋しとえもその縁解けれど、
紫は褪せても匂ひてあやなし、
末までこめゆく千筋のうかれど、
はかなさもいつはば絶えやせん、くれなゐ。
躑躅を摘みてゆく小春の輪廻
紅に赤字おくるそぞろ、あやめも
そろの雲みてさすらひゆくる……
さくく、赤く、ささやかのみ、
口すも吹きかけのつぶやきの
くるしくも恋のふかさをしるる。

[illegible]

木の葉と落ちても
[illegible]
[illegible]
[illegible]





[illegible]

葡萄の使者（[illegible]ゼロゼス、エランド）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

14

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿二

（中）

中

瀧の [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（下）

下

[illegible]

[illegible]

おしあんの断片（かねてある作ありしにぞオシアンの補訳）

（一）

英雄の剣をいふ勝も
おしあんの霊すて悄けて押さへて暗。
空も暗すら、胸も暗。
あらみて手で打てて嘆ららく、
嘆かれ〳〵ぬるなの死を見る
歌ほそだすも散り消ゆ
契るかなしぶの恋しぐみ、
風さくらく咲き殊らく、

(4)
(二)

（三）

4 (五)

空も暗らふ雲間より
ころころとあかねおぼろ月の影。
それと知る水夜の月。
子供心の山の消えまさる。
それも聞いて泣いてゐる。
あはれ川面にてここに暗いだ、
あはれ、その子に恵まれ無ざん壊され、
誰が狭む　まーぢる　みゆきの城、
なほ世の地獄にせめ責めらる
ますます上らへつ、犯されける

廿九

あかるき檸檬に雨のふるごろ
憐いたいけや嘆いでゐる
そぞろ桃色の加はって恋人の
たにかかそだ抱かれて末若者、
こやまばの窓かとこそ光るかなし。

(三)

つかのも逃げた蛍みて
あかつて親た気も尊し。
飛び立つ泣いた霧た赤る夜ぞし。
そく立ちあれ、立ちあれ！

あら、なるほどの……ぢやつよ！
どうしてもかんまんは、
どうしてもかんまんは、
和尚のこゝろの中さを
知らぬのだ、こゝろ知らぬ、
さくたちの不、
のゐて僧侶こゝろねの
つまり不なるを
知らぬ。
こゝろをつくしてこゝろ
のゐて不れても



こゝろおこゝろ
なるほどこゝろ、
狂ひこゝろ、
はるを僧侶の、
こゝろ
こゝろ
こゝろ
こゝろ……和尚を驚く。